

ふるわとは

花のまじり



守山市は、湖岸の菜の花や近江妙蓮など花のある風景が観光スポットとなっている花のまち。

市民の暮らしが田園風景の中でも、たくさんのお花農家がバラやキクを育てています。守山市は県内でも花の栽培が盛んで、JAおうみ富士花き園芸振興協会には市内の花農家16人が加入しています。需要がピークを迎える冬、ファーマーズ・マーケットおうみんちをはじめとする直売所や市場への出荷に向けて、丹精こめて最高の花を育て、収穫に追われている市内の花農家3人に話を伺いました。

①守山で収穫されたバラ(ローズハウス)②今浜町のキクハウス③④守山で生まれた「わばら」⑤キクのアレンジフラワー



花は人の心に潤いを与えてくれます。生活にたった一輪の花があるだけでも雰囲気が変わり、癒しの役目を果たしています。私たち、守山の花づくりの農家は、今年も、手をかけて責任ある良いものを作り、市場や直売を通して地元をはじめ、全国に花のある暮らしを広げていきたいと思っています。

2019年巨 JAおうみ富士 花き園芸振興協会会長

寺田彦次郎

県内唯一バラの育種を手掛け愛情注ぐ 守山で生まれた品種の「わばら」世界へ

國枝啓司さん(洋花部会・育種)

守山のバラは金森町の農家が集まって栽培を始めたのがきっかけと聞いています。私も元々は金森町で、父と兄、私の3人でバラの切花を栽培していました。

ふるさと納税の返礼品にもなっている「わばら」は、私が守山で品種開発した新しいバラのブランドです。私がバラの品種開発を始めた37年前、全国でも育種をしているのは5人位だったと思います。創りたいバラをイメージして交配、種(数千)の栽培と選別、栽培試験。イメージ通りの花ができない事も多く、25年を掛けて2〜3種類しか世に出る品種を作れませんでした。経験を積み、手掛けた品種も増えて15年前に育種農家として独立しました。



Rose Farm KEIJI 國枝啓司さん(左)と長男の健一さん

これまで私が開発した品種を集めて、長男の健一が「わばら」ブランドを立ち上げました。私が手掛けてきた品種のバラは、花束となつてグラデーションの美しさや調和が際立つバラになるようこだわっています。妻や孫たちの名前を付けた品種もあり、生まれたバラには私の分身といえるような愛情があります。これからのわが子のようなくらい、世界へ広がっていきたくと思っています。

荒地から拓いたバラ農園を守る 直売所で聞く「きれい」を励みに

川那辺静夫さん(洋花部会・切花)

約40年前、私は妻との結婚を機に、素人からバラ作りを始めました。桑や竹ばかりの荒地だった服部町地先を開墾して、数人の農家で「服部花き園芸団地」を作りました。暖房費の負担と市場価格の不安定さもあって、今ではこの団地でバラ作りを続けているのは私だけになりました。約1,200㎡のバラ園では、オーソドックスな高芯剣弁のバラ12品種を育てています。一年を通して収穫していますが、出荷のピークは冬場とブライダルシーズンです。

バラという贈答品のイメージですが、守山で育ったバラを身近に飾ってもらえたら、と18年前にレインボーロード(矢島町)にバラの直売所を建てました。義父、私、息子でバラ園を管理し、毎日収穫したバラを妻の待つ直売所などに運んでいます。バラの栽培は、温度管理の難しさや病気に弱いなど苦労もあります。しかし、直売所で「きれい」「バラを贈って喜んでもらったなど、お客の生の声を聞くことができた時には、嬉しく苦勞も吹き飛びます。



川那辺バラ園・ローズハウス(直売所) 川那辺静夫さん

親子3代しっかりとバラ園を引き継いでいけるように、今年も美しい花を守っていきたくと思っています。

日本伝統の和花でご先祖を迎える 仏花のイメージ変わる豊かな品種

寺田彦次郎さん(和花部会)

市内には11軒のキク農家があり、今浜町にはキク栽培団地があります。最初のキク農家が今浜町で操業したのは1964(昭和39)年です。その後、8人の農家がキク栽培を始めました。その後、団地はさらに大きくなりました。

私も脱サラの後に父を継いでキク農家となり21年、団地の5棟のハウスでキクを栽培し、年間35万本を出荷しています。キクは通年出荷していますが、その中でもお彼岸やお盆、お正月など、ご先祖さまを迎える時期が生産のピークになります。

仏花のイメージが強いキクですが、一口にキクといっても大手の苗屋で扱っているだけで3,000品種あるといわれ、毎年新しい品種が発表されています。近年は洋風の形や色を持ち、フラワーアレンジや花束に使われる品種も増えています。団地内でもさまざまな種類のキクを育てている農家もいます。東京で近江の花紹介をした時には、キクのイメージ



キクの収穫に追われる寺田農園 寺田彦次郎さん

を変えたいという思いが、今年もキク栽培のレベルを上げ、いいものを作りたいと思っています。近年の猛暑や台風など、自然相手の切花農家には厳しい面もありますが、今年もキク栽培のレベルを上げ、いいものを作りたいと思っています。